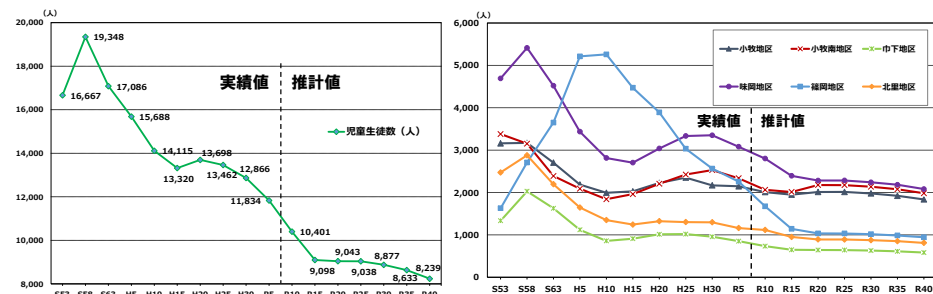


(政策の柱) 3.教育と文化

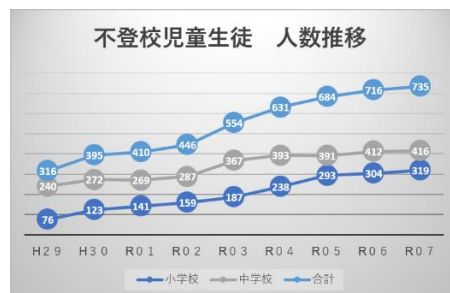
6 学校教育と教育環境

主な課題

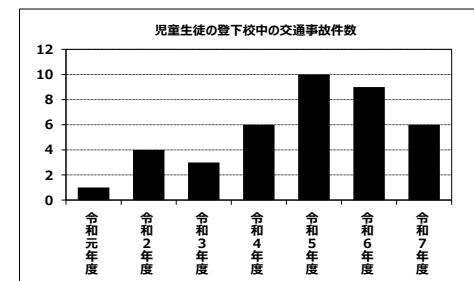
- 「学校が楽しいと思うこどもの割合」は継続して 90%を超えていますが、「自分の考えを伝えようとしている児童生徒の割合」は上昇しているものの 70%台であるため、時代を切り拓く力を育む「学び」の充実が必要です。(➡施策①)
- こどもの数が減少傾向である中、学校の適正規模・適正配置や、こどもたちにとってより望ましい教育環境の基本的な考え方を整理した「小牧市新たな学校づくり推進計画」に基づき、早急に学校再編に取り組む必要があるとされた中下地区、篠岡地区、北里地区において計画的に教育環境の整備を進める必要があります。また、老朽化が進む学校施設は、更新や維持管理に多額の費用を要することから、施設の適正な維持管理を行うとともに、計画的に大規模改修や改築を進める必要があります。(➡施策①⑤)



- 近年、不登校児童生徒数が増加しています。また、特別支援学校ではなく、地域の学校で学ぶことを希望する保護者が増え、特別支援学級在籍数は毎年 1~2 割程度増加しています。加えて、外国人児童生徒は母国語の多国化が進んでいます。このため、多様な教育ニーズに対応した一人ひとりを大切にする教育の推進が必要です。(➡施策②)



- 教職員の ICT※活用能力や活用状況には差があり、多様な困難を抱える児童生徒への支援にも十分活かされていません。このため、ICT 支援員※の活用や研修を通じて教職員の能力向上を図り、不登校や発達障がいのある児童生徒など、多様なニーズに応じた学びを充実する必要があります。また、デジタル利用の拡大に伴い、デジタル・シティズンシップ教育※の充実と新たなリスクへの対応が求められています。(➡施策③)
- 学校での食育※を続けていますが、令和 7(2025)年度には残食率が 11.7%と依然高いため食育の方法などを検討する必要があります。(➡施策④)
- 本市は自動車の交通量が多く、毎年登下校中の交通事故が発生しているため、関係機関と連携し、通学路の危険箇所の把握と安全対策を進める必要があります。また、遠距離通学児童生徒や通学時の熱中症対策など児童生徒が安全・安心に通学できる環境を確保する必要があります。(➡施策⑤)



関連する計画：

- 小牧市教育大綱（令和 9（2027）年度～令和 18（2036）年度）
- 小牧市教育振興基本計画（令和 9（2027）年度～令和 18（2036）年度）
- 小牧市学校施設長寿命化計画（令和 2（2020）年度～令和 28（2046）年度）
- 第 3 次小牧市学校教育 ICT 推進計画（令和 9（2027）年度～令和 13（2031）年度）
- 小牧市新たな学校づくり推進計画（令和 6（2024）年度～令和 28（2046）年度）
- 篠岡地区学校再編計画（令和 8（2026）年策定）

目指すまちの姿

こどもたちが夢を育み、安全・安心な学校生活を送ることができる教育環境を整え、温かな心の源となる「愛」、自らを高める意志の源となる「夢」、社会をたくましく生き抜くことができる「生きる力」を育てるまちにします。

代表的な指標

指標	令和 7 年度 基準値	令和 12 年度 目標値	令和 16 年度 目標値
学校が楽しいと思うこどもの割合	92.3%	93.0%	93.5%
不登校児童生徒数	735 人	730 人	725 人
施設維持管理上の不備による児童生徒の 事故件数	0 件	0 件	0 件

施策① 児童生徒の学びや学校生活を充実します

- ・ 児童生徒数の減少と学校施設の老朽化が著しい地域において、地区別の学校再編計画を策定します。
- ・ 授業の質の向上を図るため、小学校のプール授業の民間委託や外部講師としてのゲストティーチャーの活用を推進します。
- ・ 探究的な活動※をより進めるため、教職員が同じ目的に向かって取り組めるよう、ニーズに合った教職員研修に取り組みます。
- ・ ICT 機器などを活用して教職員の多忙化解消に取り組みます。

施策② 児童生徒や家庭への支援体制を強化します

- ・ 不登校の児童生徒へのオンライン学習支援や、居場所づくりに取り組みます。
- ・ 不登校児童生徒支援として相談窓口の充実、保護者のための情報交換会の開催など保護者への支援体制を整えます。
- ・ 篠岡地区学校再編後の利用されなくなる校舎を活用した総合教育支援センター設置を計画します。
- ・ 不登校や特別な支援が必要な児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒の支援を行うため、スクールソーシャルワーカー※や学校生活サポーター※、語学相談員※などの配置を行います。
- ・ 経済的に恵まれない生徒の就学や進学を支援します。
- ・ 本市独自の給食費無償化を引き続き実施します。

施策③ ICT 教育環境を整備し、ICT を活用した学びを充実します

- ・ インターネットや SNS などのメリット、デメリットを理解し、様々なリスクに対応する力を身につけるために、こどもたちの発達段階に応じて、体系的にデジタル・シティズンシップ教育を実施します。
- ・ ICT 支援員を配置し、ICT 活用の各種支援や授業実践事例などの蓄積、情報共有を行います。
- ・ ICT 活用に関する教職員研修を計画的・定期的に実施します。

施策④ 安全・安心な学校給食を提供します

- ・ 衛生管理を徹底し、安全でおいしい学校給食を提供します。
- ・ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣の定着に取り組みます。
- ・ 食物アレルギーに対し、適切に対応します。

施策⑤ 安全で充実した教育環境を整備します

- ・ 老朽化した学校施設の整備を計画的に実施します。
- ・ 通学路へのみどり線の設置や横断歩道のカラー化、通学路の歩道整備を計画的に推進するなど、児童生徒が安全・安心に通学できる環境を整えます。

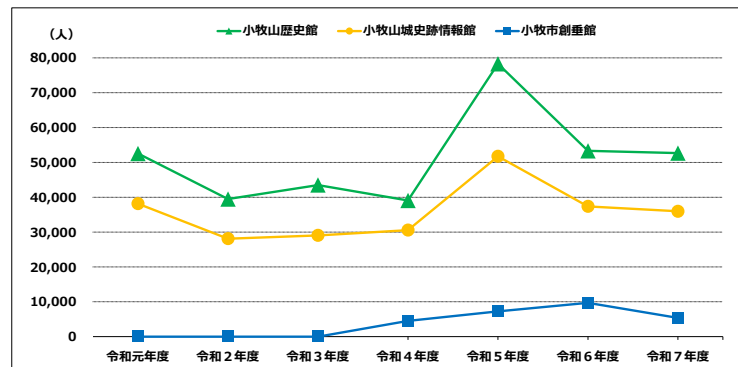
※施策の進捗状況を評価するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
学校教育と 教育環境	施策①	自分の考えを伝えよう としている児童生徒の 割合	75.3%	77.0%	78.0%
学校教育と 教育環境	施策②	不登校児童生徒のうち、登校で きるようになった者及び良い変 化があった者の割合	35.9%	40.0%	45.0%
学校教育と 教育環境	施策③	ICT を効果的に活用し て授業をしている教員 の割合	85.0%	88.0%	90.0%
学校教育と 教育環境	施策④	残食率	11.7%	10.0%	9.3%
学校教育と 教育環境	施策⑤	児童生徒の登下校中の 交通事故件数	6 件	0 件	0 件

7 小牧山と歴史・文化財

主な課題

- 「小牧の歴史や伝統文化に興味・関心を持っている市民の割合」は上昇傾向にあり、取組は一定の成果を上げています。一方で、なお約3割の市民は関心が低く、啓発や周知の強化に加え、無形民俗文化財※などを継承する担い手の確保が必要です。(➡施策①、②)
- 小牧山城※はその歴史的価値から、人に紹介したくなる観光資源として、市民の認知度は増加傾向にあります。発掘調査などにより変化する小牧山城の姿を伝え、小牧山城を軸とした本市への誘客につなげることが必要です。(➡施策①)
- 近年の発掘調査や史跡整備により、築城当時の小牧山城の姿が明らかになり、「近世城郭のルーツ」としての歴史的価値が高まっています。一方で、小牧山歴史館等の入場者数は減少傾向にあり、展示の工夫や情報発信の充実が必要です。(➡施策①、②)



- 文化財への市民の関心を高め、講座や展示、ワークショップなどへの参加者数を継続的に拡大していくことが重要です。そのためには、デジタル技術を活用した効果的な情報発信を推進するとともに、多様な層（こども、高齢者、外国人市民など）のニーズを踏まえた情報提供の充実が必要です。(➡施策①、②)
- 指定文化財※の件数は、ほぼ横ばいの状況です。未指定の文化財は、価値が認識されぬまま滅失していくリスクがあるため、その保護に向けた取組が必要です。(➡施策②)

関連する計画：

小牧市教育大綱（令和9（2027）年度～令和18（2036）年度）
 小牧市教育振興基本計画（令和9（2027）年度～令和18（2036）年度）
 史跡小牧山保存活用計画（令和9（2027）年度～年度末に決定）
 愛知県指定天然記念物「大草のママナシ自生地」保存活用計画（令和2（2020）年度～令和13（2031）年度）

目指すまちの姿

市民が郷土の歴史や文化への愛着と誇りを感じられる、魅力あるまちにします。

代表的な指標

指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
小牧の歴史や伝統文化に興味・関心を持っている市民の割合	74.6%	77.0%	80.0%
小牧山歴史館、小牧山城史跡情報館、小牧市創垂館の入場者数	94,019 人	99,000 人	103,000 人
こまき歴史発見館の入場者数	令和9年度に設定予定		

施策① 史跡小牧山を保存・活用します

- ・ 史跡小牧山※の発掘調査成果をもとにした史跡整備を進め、その歴史的価値や魅力をわかりやすく伝えていくとともに、本市を代表する歴史観光の拠点として整備を行い、市内外からの誘客を促進します。
- ・ 小牧山歴史館※、小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）※における展示内容の充実を図るとともに、小牧市創垂館※を含めた各施設の魅力的な情報発信を行います。
- ・ 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康をはじめ、小牧・長久手の合戦など、小牧山と深く関わった歴史や人物に関連する講座やイベント、企画展などを開催し、市内外の人々が小牧山への理解を深める機会を創出します。

施策② 小牧固有の歴史・文化遺産を保存・活用します

- ・ 市内の文化財や古文書などの調査を継続的に実施し、市にとって重要なものについて、指定・保護を進めていきます。
- ・ 歴史や文化財に関する講座や展示、ワークショップなどを開催することにより、市民が文化財に興味・関心を持つ機会を提供し、郷土愛の醸成を図ります。
- ・ こまき歴史発見館※を拠点として、小牧固有の歴史や文化財の魅力を広く発信し、郷土への誇りと継承の機運を高める取組を推進します。

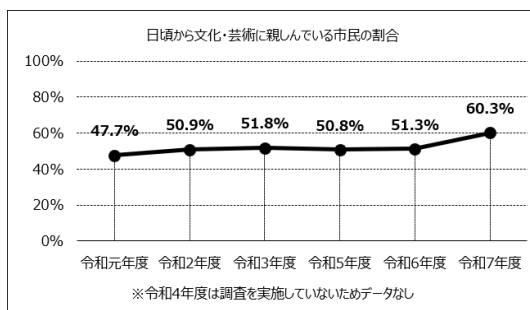
※施策の進捗状況を評価するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
小牧山と歴史・文化財	施策①	小牧山歴史館、小牧山城史跡情報館、小牧市創垂館の入場者数	94,019 人	99,000 人	103,000 人
小牧山と歴史・文化財	施策②	講座や展示、ワークショップなどへの参加者数	39,973 人	42,000 人	44,000 人

8 文化と芸術

主な課題

- 少子高齢化の進行や人口減少、価値観やライフスタイルの多様化により、市民一人ひとりが心の豊かさや生きがいを実感できる環境づくりの重要性が高まっています。また、デジタル技術の進展や社会環境の変化により、学びや文化活動に対するニーズも多様化しています。(➡施策①)
- 人生 100 年時代を迎え、生涯にわたり学び続けることの重要性が高まっています。市民一人ひとりの興味や関心に応じた多様な学習機会の充実に加え、学びを通じて自己実現や生きがいづくりにつなげることができる環境づくりが求められています。(➡施策①)
- 文化芸術活動は、人々の感性や創造性を育むとともに、心の豊かさや生きがいの向上に重要な役割を果たしています。一方で、市民が身近に文化芸術に触れ、創造し、発表できる機会のさらなる充実が求められています。(➡施策②)
- 誰もが文化芸術に親しみ、多様な学習機会を通じて学び続けることができる環境の充実を図り、市民一人ひとりの心の豊かさや生きがいづくりにつなげていく必要があります。(➡施策②)
- 本市の図書館・図書室における貸出利用者及び貸出点数は、令和 3 (2021) 年 3 月の中央図書館の開館の効果により大幅に増加しましたが、近年は、高い水準は維持しているものの、少しずつ減少しているため、市民ニーズに応じた蔵書の充実を図るなど、図書館利用の増加を図る取組の強化が必要です。(➡施策③)
- こどもの読書離れが進む中、こどもの読書活動の推進を図り、読書意欲と学びを高める役割を強化する必要があります。(➡施策③)



関連する計画：

小牧市教育大綱（令和 9（2027）年度～令和 18（2036）年度）

小牧市教育振興基本計画（令和 9（2027）年度～令和 18（2036）年度）

目指すまちの姿

誰もが文化に親しみ、生涯にわたって学び続けることで、心豊かに生きがいを持って暮らすことができるまちにします。

代表的な指標

指標	令和 7 年度 基準値	令和 12 年度 目標値	令和 16 年度 目標値
生涯学習に関する講座の受講者数	9,944 人	10,440 人	10,960 人
日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合	60.3%	64.0%	66.0%
図書館資料の貸出点数	1,162,240 点	1,200,000 点	1,200,000 点

施策① 学びを通じて生きがいや自己成長を実感できる生涯学習環境の充実を図ります

- ・ 市民一人ひとりの興味や関心、ライフステージに応じた学習機会の充実を図るため、市の公共施設を活用した講座や教室を実施し、多様な学びの場を提供します。
- ・ 市民が主体的に学び続けることができるよう、生涯学習に関する情報発信の充実や学習活動団体への支援を行い、継続的な学習活動を促進します。
- ・ 学習成果の発表や交流の機会を充実させることで、学びによる達成感や自己成長を実感できる環境づくりを進めるとともに、学習意欲の向上につなげます。

施策② 誰もが文化芸術に親しみ、文化芸術活動に参加できる機会の充実を図ります

- ・ 市民が身近に文化芸術に触れることができるよう、鑑賞や体験の機会の充実

を図り、文化芸術への関心を高めます。

- ・ 市民が文化芸術活動に取り組み、その成果を発表できる機会の充実を図るとともに、文化芸術を通じた交流を促進します。

施策③ 図書館サービスを充実します

- ・ 市民の生涯学習や研究、地域の課題解決に寄与する資料の収集、こどもの発達段階に合わせた資料の選書など、図書館の蔵書の充実を図ります。
- ・ 図書館が所有する貴重な郷土資料のデジタル化を進めるとともに、デジタル化社会に対応したサービスの拡大を図ります。
- ・ 保育園や小中学校などへ希望する本を配送する「施設配本サービス」を継続的に実施します。
- ・ 中央図書館については、「居心地の良い滞在型の図書館」として来館者の増加を図るとともに、中心市街地の活性化、にぎわい創出となるイベントを実施します。

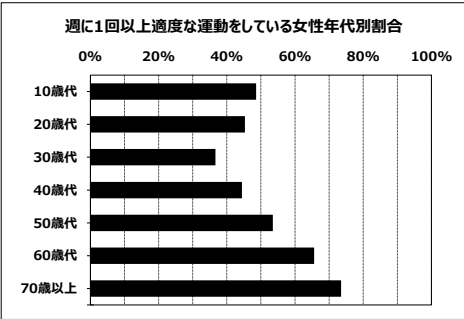
※施策の進捗状況を評価するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
文化と芸術	施策①	生涯学習に関する講座の受講者数	9,944 人	10,440 人	10,960 人
文化と芸術	施策②	日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合	60.3%	64.0%	66.0%
文化と芸術	施策③	図書館資料の蔵書点数	609,308 点	640,340 点	666,300 点

9 スポーツ

主な課題

- スポーツは、健康の維持・増進だけでなく生きがいづくりや仲間づくり、人と人との交流を促進するなど多様な役割を担っています。また、近年はスポーツを通じて人が集い、つながることで、地域コミュニティの活性化や豊かな地域社会の形成に果たす役割への期待も高まっています。(➡施策①)
- 市民意識調査(令和7(2025)年度実績)によると、週に1回以上適度な運動をしている市民の割合は58.8%となっています。一方で、60歳代以上では約71%と高いものの、20～40歳代の女性では約42%と低く、年代や性別による差が見られます。この背景には、働き世代や子育て世代における時間的制約や、運動を始めるきっかけの不足などがあると考えられます。(➡施策①)
- 少子高齢化や人口減少の進行に伴い、スポーツ活動を支える人材の確保や育成、スポーツ団体の持続的な活動への対応が課題となっています。(➡施策②)
- 誰もがライフステージや生活スタイルに応じてスポーツに親しむことができる環境を整えるとともに、スポーツを通じた健康づくりや交流を促進し人と人が集い、つながる機会の創出を図っていく必要があります。(➡施策②)



関連する計画：

小牧市教育大綱(令和9(2027)年度～令和18(2036)年度)

小牧市教育振興基本計画(令和9(2027)年度～令和18(2036)年度)

目指すまちの姿

生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で心豊かに暮らすとともに、スポーツを通じた交流と活力があふれるまちにします。

代表的な指標

指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
週1回以上適度な運動をしている成人市民の割合	58.8%	65.0%	70.0%
市が管理するスポーツ施設の年間利用者数	533,249人	560,000人	580,000人

施策① 誰もがスポーツに親しむことができる機会の充実を図ります

- ・ 市民がライフステージや生活スタイルに応じてスポーツに親しむことができるよう、多様なスポーツ機会や参加しやすい環境の充実を図ります。
- ・ 働き世代や子育て世代をはじめ、運動習慣が定着していない市民が日常生活の中で無理なく運動に取り組むことができるよう、気軽に参加できる運動機会の提供や健康づくりにつながる取組を推進します。
- ・ スポーツを通じて人と人との交流やつながりを深めることができる機会を創出し、地域コミュニティの活性化を図ります。

施策② スポーツ活動を支える環境づくりを推進します

- ・ 市民が安全かつ快適にスポーツ活動に取り組むことができるよう、スポーツ施設の適切な維持管理を行うとともに、利用しやすい環境の充実を図ります。
- ・ スポーツ活動の継続的な実施に向け、スポーツ指導者やボランティアなどの人材の確保を図るとともに、スポーツ団体や民間事業者などとの連携により、スポーツを支える体制づくりを進めます。

※施策の進捗状況进行评估するための指標（巻末に一覧を掲載）

分野	施策	指標	令和7年度 基準値	令和12年度 目標値	令和16年度 目標値
スポーツ	施策①	週1回以上適度な運動をしている成人市民の割合	58.8%	65.0%	70.0%
スポーツ	施策②	市が管理するスポーツ施設の年間利用者数	533,249 人	560,000 人	580,000 人